

大切な水

聖心女子学院

初等科

四年ゆり組

小島 紀乃こしま きの

わたしの住んでいるマンションのとなりに
は多ま川が流れていきます。リビングのまどか
ら、多ま川をみるのが好きです。雨がたくさ
んふった日は川の水が多くなって、中すもな
くなくなってしまいます。ぎやくに、何日も雨が
ふらない夏休みの日は、中すが川のはしから
はしまで広がって鳥がたくさん止まっていま
す。雨で風景ががらりと変わること、雨の
力を感じます。

家で使う水道の水は、多ま川の水も入って
いると聞いて、水道水のことを調べたいと
思いました。それで、多ま川げん流の水ひを
登山してみました。リュックに入れた水がと
ても重く感じました。行くと中、かん板があ
って、読みながら歩きました。さわが横を流
れていて、手を1秒つけただけでもとても冷
たくてジーンとするくらい。おどろきました。

まるで冷ぞう庫で冷やした水みたいで。暑くてつかれた気持ちがいっしゅんで生き返りました。どんなクーラーよりも最強です。土から水がちよろちよろとしみ出している。わき水を見つけました。かん板を読むと、雨の水が森林の土の中にしみこんでいき、途中で水を通しにくい土のそうにぶつかって、地面に出てきた水だそうです。4時間たくさんたぐさん歩いてやっと多ま川の始まりという水ひにつきました。水ひから水はまったく出て

いなかっただけれど、そこから少し下に歩いたところにわき水が出ている場所がありました。それが目で見える多ま川の最初の流れです。水がわき出ているこの場所から、あんなに遠くて大きな多ま川につながっているなんて、とても長い時間をかけて長い旅をしているなと思います。家を出発するときは、水げんはきつとたきのようにごうごうとすごいいきおいで水が出ているものだと思っていました。実さいはそうではなく、静かにわき出ていま

した。でも流れつづいていっているのを見たら、弱い感じはぜんぜんなくて、わたしたちの生活を支えていいるよと教えてくれているように感じた。

帰りに小河内ダムにもよりました。ダムは湖のように見えました。たくさんの水がたまっている、安心しました。

雨がふる日はしたいことができなくなるし、さらにだっただけで、雨の日もすぎになりました。雨が森にふってくれないと、プールで

遊ぶこともできないです。自分が使っている水が雨とつながっているのを感じられるようになりしました。雨がふっても、森林のような自然がないと水はためられません。登山のときの水は重すぎたけれど、その重みが水の大切さなのかもと家族で話しました。水をつかうときは、ぜひ水して、雨にありがとうと言いたいです。